



金 沢 大 学 長

**山崎光悦**

金沢大学は、その源流となる 1862（文久 2）年の加賀藩彦三種痘所の設立以降、150 年以上にわたる長い歴史を経て、現在の日本海側における基幹的な総合大学へと発展してきました。そして現在、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学憲章に掲げ、「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材」を育成するとともに、科学的な世界観と歴史観、論理的展開力、己を磨く人間力、創造力、そして日本文化・異文化に対する深い理解力を備え、知的基盤社会の中核的リーダーとなって挑戦し続ける人材の育成に努めています。

第3期中期目標・中期計画期間の開始年度となる平成 28 年度概算要求において、金沢大学の将来を見据えた議論の末、本学は「重点支援3」の枠組みを選択しました。世界と伍する教育・研究を展開するため、今後も改革を断行していきます。教育分野では、2016 年 4 月に「金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）」を基軸とした共通教育の改革に向け、国際基幹教育院を創設しました。そこでは、GS 科目のうちの 1 科目として「環境学と ESD」を開講するなど、環境教育を積極的に推進していきます。研究においても、環日本海域環境研究センターの全国共同利用・共同研究拠点への認定を機に、国内外の教育・研究機関と連携しつつ、より一層環境に関する研究の強化・充実を図っていきます。地域においては、「能登里山里海マイスター育成プログラム」や文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」等を通じ、多くの自治体と連携した ESD 活動を推進しています。2014 年 9 月に金沢大学が代表団体となり設立した北陸 ESD 推進コンソーシアムは、学校や企業等、様々な団体や関係者が北陸地域全体で環境・ESD に取り組むべく、積極的にその活動を展開しています。

金沢大学では、教育研究活動に伴う環境への影響を最小限に抑えるよう、環境負荷の低減を目指し、全学的に環境マネジメントシステムを実施しています。2014 年 9 月には環境方針の見直しを行い、法令や学内の環境関連規則の遵守の徹底、環境負荷の一層の低減を図っているほか、「金沢大学キャンパスマスタープラン 2015」では、中長期的なエネルギーの削減計画を視野に入れた環境負荷低減を明文化しています。

2016 年 12 月には、第 8 回ユネスコスクール全国大会を金沢大学で開催します。地域の ESD 活動の拠点として、環境配慮が今後の持続可能な社会づくりに不可欠であると認識し、引き続き、環境分野での教育、研究及び社会貢献の一層の充実を図るとともに、大学活動による環境負荷のさらなる低減を目指します。